

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	・海外トップ大学への進学実績 ・国公立大学・難関私立大学への進学者の増加 ・外部機関の客観的学力診断テストや学校教育自己診断によるスコアの向上
計画名	21世紀型の新しい学校！計画 volume. 4

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	2、グローバル時代に対応する教育システムの開発 (2)ロジカル・クリティカルシンキングの理解・実践 ア、スキルを学ぶための思考ツールの開発を行う。 イ、授業方法として、ディベートやプレゼンなどを行う。 3、進路・生徒指導の強化 (1)進路実現のために必要なシステムの開発 イ・ウ、国内の国際系大学、海外大学への進学システムを構築する。
事業目標	■平成28年度よりスタートした「国際科（グローバル科）」について、特に高校2年次の「総合的な学習の時間」において、海外大学進学へ向け、世界の最先端の教育を行うことが必須となる。方法としては以下のとおりである。 ①最先端のActive Learningが実施できる教室の設定。 ②Design ThinkingやTOK(Theory of Knowledge)などを基盤にした新しいカリキュラムの構築。 ③上記②を実施するための指導法・研修体制の確立。 この取組みをまずは本校の国際科・普通科に、そして大阪府全体に還元できるようにパッケージ化する。
整備した 設備・物品(数量)	EVAブロック（椅子） 30脚 ⇒ ウチダ ワークテーブル IP-2 6545FN型 24台 wivia(ルーター) 一式 ⇒ ウチダ Mfi7/FM-265 33脚、教育素材 EVATM 30 別製 40個、 日本ファイリング 複式書架用木製側板 10枚 日本ファイリング 可動式展示架 3台 ウチダUL-35 スワール三日月型φ900 ビニールレザー製9台 ウチダUL-34 スワール丸型φ900 ビニールレザー製 1台 プロジェクター（CP-AW3003J） ⇒ 日本ファイリング窓下書架単式3段4連 2台 インフィル部材費 一式 ⇒ 日本ファイリング 窓下PCデスク5人用 1台 日本ファイリング窓下閲覧机4人用仕切り付 1台
取組みの 主担・実施者	校長・教頭・首席を中心に、プロジェクトチームを立ち上げる。 ※「骨太英語」プロジェクトチームと密接に関係する「グローバル人材育成チーム」を立ち上げ、学年・教科横断的な組織を構築する。
本年度の 取組内容	・「グローバル科」設置のポイントとなる高2時の、「総合的な学習の時間」を「21世紀型スキル」と題して、Design Thinkingを中核としたActive Learning「箕面メソッド」を確立するため、年間を通して「グローバル人材育成委員会」を行い、その中に総合小委員会を設け、中身の検討を行う。 ・骨太の英語力養成事業と連携させ、iBT特設レッスンで授業のプロトタイプが構築できているので、英語のみならず、他の教科で実施できるようにする。 ・双方向性のある授業展開のカリキュラム・教材の開発を推進する。 教員個人の取組みを教科全体で考える体制に移行できるよう働きかけをしていく。 ・上記の取組みを加速化させるため、図書室の改修を行う。
成果の検証方法 と評価指標	①国公立大学への現役合格者：平成27年度38名→平成28年度45名に増やす。 ②難関私立大学の現役合格者：平成27年度260名→平成28年度280名に増やす。 ③学校教育自己診断（教員）：教員同士の信頼関係…平成26年度35%→平成28年度70%に増やす。 ④海外トップ大学への現役合格：開校以来0名→平成28年度1名に増やす。（トップ校以外+2名）
自己評価	※（記号説明）大きく上回った（◎）、上回った（○）、達成できず（△）、実施できず（×） ・総合小委員会は年間通して議論を重ね、実施可能なプログラム「箕面メソッド」を作成できた。 ・図書室などを利用した、双方向性のある授業について、英語科だけでなく、国語・地歴公民・家庭・情報などでも実施（実証実験）できた。 ・カリキュラム開発は、教員個人の取組みに大きく支えられている。教科全体に広がっていない。 ①国公立大学への現役合格者：平成27年度38名→平成28年度39名（△） ②難関私立大学の現役合格者：平成27年度260名→平成28年度319名（◎） ③学校教育自己診断（教員）：平成26年度35%→平成28年度50%（△） 学校教育自己診断については、教員の提出率が約40%増加しており、学校経営参画の意識向上が見られる。 ④海外トップ大学への現役合格：開校以来0名→平成28年度2名（◎）
次年度に向けて	・「総合的な学習の時間」を「21世紀型スキル」と題して、Design Thinkingを中核としたActive Learning「箕面メソッド」を確立するため、実際の運営、引き継ぎ方法、効果検証などを実施と並行して議論していく。 ・教員個人の取組みを、教科全体に広げていくため、まずは英語科（骨太の英語力養成事業対象校であるため）において、教科の基本方針を作成させる。その上で他教科にも働きかけ、少なくとも来年度には複数の教科で基本方針が出来上がるようにする。 ・図書室の改修に基づく成果を、大阪府に還元できるよう、授業公開などをなお一層実施する。 また、他府県からの視察を利用して、大阪府の成果を紹介していく。 ・取組みの主担・実施者を、管理職から首席中心の教員に移行できるように、準備を進める。